

## 口は健康のもと Vol.113

### 歯の治療と骨粗鬆症

#### ～定期健診・ケアが大切～

骨粗鬆症（こつそしょうしょう）とは、骨が作られる速度よりも骨が吸収される速度が高いことにより、骨に小さな穴が多発する現象をいいます。治療は、薬剤服用または注射によるものがあり、ビスフォスフォネート系薬剤（BP薬剤）、活性化ビタミンD、ビタミンK、カルシウム薬剤の投与などで行われます。この中でBP薬剤（アレディア、ゾメタ、フォサマック、ボナロン、ベネット、アクトネルなど）が、骨量を上げる作用があります。

最近、歯科領域においてビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死という顎骨が腐る病気が問題になっています。しかし、BP薬剤を使用すれば必ずしも出るわけではなく、歯周病や抜歯などの手術をした後の細菌の感染により、発症することが多い病気です。

現在のところ、同薬剤投与を避ける以外の有効な予防法はなく、また一旦発症すれば症状は進行性で、極めて難治性です。ですから、このBP薬剤を使用していた方は必ず歯科を受診する際、歯科医師にそのことを伝えてください。また、骨粗鬆症などでその薬の使用を開始する前にきちんと歯科治療を終え、定期的に健診、ケアを続けていくことがとても大切です。

こつ  
**骨**  
ほねが

そ  
**粗**  
あらくなり

しょう  
**鬆**  
スが入る

しょう  
**症**  
症状



奥羽大学歯学部附属病院  
口腔外科 講師 馬庭 暁人

